

## 日本におけるチベット学の芽生え、発展と現状

陶雲静

### 要旨

日本は世界で最も早くチベットに関する研究を始めた国の一つである。チベット学の研究機構を一番早く成立し、チベット民族に関する資料の収集を一番早く始めた国際におけるチベット学研究の重鎮でもある。単なるチベット語の資料から見ても、世界で一番多くそれを収集している。日本のチベット研究は仏教研究から始まり、ここ数年研究範囲が徐々に広まり、チベットの歴史や文化、言語、民間文学、人類学などさまざまな研究が展開されている。日本のチベット学研究の実力が強い背後に完備な研究機構がある他、充実な研究経費の支持もある。国内外でチベット学の地位が高まる背景のもと、その先頭に立つ日本のチベット学を研究することはとても意義と価値のあることであると思われる。

そのため、本文は主に日本チベット学の発展の脈絡と現状の整理を試み、それを礎に、その発展の特徴と中国チベット学に対する啓発を考え、これからの両国の協力によるチベット学研究の可能性を模索していきたい。

キーワード：チベット、入蔵者、チベット学